



今井小だより

横浜市立今井小学校
令和3年2月26日
学校だより3月号

学校教育目標：かがやいている子 「自分大好き！今井大好き！」

一年を振り返って

学校長 森脇 信行



満開の河津桜(東門)

臨時休業、分散登校から始まった令和2年度も、修了、卒業の月を迎え、残すところあとわずかになりました。6年生の教室には、卒業までの登校日の掲示があり、残り少ない小学校生活を大切にしようという気持ちが伝わってきます。6年生に限らず、学年末という節目は、子どもが進学や進級に対する心構えを作る大切な時期となっています。これまで自分が積み重ねてきた学び、仲間と築きあげた絆など、かけがえのない経験に自信をもって4月から始まる新しい生活に向けた準備をしてほしいと

願っています。学校も子どもたちのこの一年の成長を、進級を機に、次へのさらなる成長へとつなげていきたいと考えます。

今年度は、コロナ禍の中、先が見えないスタートとなりました。また、創立140周年を迎え、記念行事を含め、行事や授業ができるのだろうか。どうやったら、安全に学校を再開できるのだろうか。不安だらけの中で4月を迎えたことを覚えています。

新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、我が国の政治や経済は大きな影響を受けました。このように先行き不透明な現状と併せて、努力すれば成果が得られるという高度成長期とは違った社会状況も見られます。それだけに、学校にとどまらず教育界全体において、これまで以上に社会の変化に主体的に関わって、困難を乗り越える力の育成が強く求められています。昨今の現状で、頑張ればできるというような単線的な価値観だけでは解決できない課題が見えています。また、励ませば励ますほど、失敗を避け、現実を直視することなく自分を守る姿勢が見え隠れします。それは、同時に励ませば育つという評価の転換を迫るものでもあると言えます。この、混沌とした社会の中で、子どもたちの生きる力の育成には、自分には現状を変える力があることに気づくこと、そして、自らの言動には責任が伴うことを実感することが大切だと考えます。今井小学校では、今後も励まされることによるのみ行動するのではなく、「果たすべき役割」に気づき、自ら判断して実行に移す子どもの育成を重視していきたいと考えます。

保護者の皆様。地域の皆様。今年度も大変お世話になり、ありがとうございました。お陰様で教職員一同、思いきり教育活動に励むことができました。来年度も、保護者の皆様や地域の方々と一緒に考え、共に子どもたちの成長を感じながら、一人ひとりであった教育をより一層進めていきたいと考えています。